

佳作

七メートル泳げたよ

岡山県倉敷市立大高小学校四年

根津 翔真

ぼくの通っていた幼稚園は、小学校のプールで泳ぐ授業がありました。ぼくは、プールの中ですべておぼれてしまいました。すぐに先生がプールにとびこんで助けくれたから、大じょうぶでしたが、プールは大きらいになりました。

でも、その小学校に入学したから、夏になると毎年おぼれたプールに入らなければいけません。ぼくは、プールの授業がいやでたまりませんでした。

お母さんがおぼれたことを伝えていたから、先生はぼくがプールをいやがっても、おこりませんでした。はじめは、プールにつかったり歩いたりして、少しずつ水になれていきました。他の子がバタ足をしたり、ちよっとずつ泳げるようになって、ぼくはなかなかみんなと同じようにできませんでした。先生と手をつないでプールに入ったり、かべをつ

たいながら歩くことはできました。そのうち、先生が体をささえてくれたら水の中でうくことはできるようになりました。顔を水につけることもできました。でも、ときどき水の中で体がコチコチにたかくなったり、涙が出ることもありました。こうして何年かがすぎて泳げないまま、四年生になりました。

四年生になると、大きいプールで二十五メートルを泳げる人がふえてきました。ぼくのように小さいプールに入っている人は、ほとんどいません。ぼくは、あせっていました。

ぼくは、大きいプールで泳ぐ練習をしました。こわくて、すぐに足をついてしまいます。でも、このままでは四年生で泳げない子は、ぼく一人になるかもしれません。仲のいい友達二人は、足をつけずに泳いでいます。がんばっても、二人のようにうまく泳げません。

二人は他の子たちと仲よく泳いで、ぼくをおいていくかもしれない。友達ではなくなるかもしれない。どうしようかと思いました。

でも、二人はそんなことはしませんでした。どんどん泳げるはずなのに、いつもプールの中で立ち止まってぼくをまってくれました。

「オレのように手を動かせよ。」

と言って目の前で泳ぎ方を見せてくれました。

「がんばれ。」

と、はげましてくれました。先生もおこらず体をささえてくれました。ついに足をつけずに七メートル泳げました。何度も足はついたけど、二十五メートル泳ぎきることができました。

お母さんに

「プールの授業がいやだって言わなくなったね。」
と言われました。本当です。いつのまにか、次のプールの授業ではどれくらい泳げるかな？と考えるようになりました。

ぼくは、友達と先生のおかげで泳げるようになりました。五年生の夏は、もっと泳げるようになりました。みんな、ありがとう。ぼく、プールがきらいじゃなくなったよ。七メートル、泳げるようになったよ。